

# ふるさとの魅力再発見、ながさきプロジェクト

能登島自然の里ながさき

## 1. 活動概要

- ◆ 活動名 ふるさとの魅力再発見、ながさきプロジェクト
- ◆ 主 催 能登島自然の里ながさき
- ◆ 活動場所 能登島長崎地内
- ◆ 参加者 (延べ人数)  
幼児：3名 小学生：12名 大人：30名 関係者：112名
- ◆ 開催日 平成28年4月～平成29年1月

## 2. 目的

過疎化が進行する現状、地区の将来を見据え、一人一人が出来る事を再認識する事を目的として、里山里海資源の発掘、伝統文化の継承、地域住民が主体となる取り組みを目指し、「塩」をテーマに山菜漬け、外部講師による勉強会、ワークショップ等を開催した。

## 3. 活動記録

### ① ながさき天然塩 を使った山菜漬け

- 開催日 平成28年4月～6月に4回行なう。
- 会 場 能登島長崎地内
- 参加者 関係者： 延べ15名 女性人が中心
- 活動内容

従来、自家消費のみのワラビ、フキ等の山菜の塩漬けであったが 今回、ながさき天然塩を使った山菜の塩漬けを試験的に行なった。

### 開催記録

時 間	内 容
8：30～ 山菜の採取	4月～6月（4回） フキ、ワラビ、マダケ、ホテイチク、 ウワバミソウ等のながさき天然塩を使 った山菜漬けを行なう。 (採択前なので写真点数少ない)
13：00～ 山菜の塩漬け	
15：00 終了	
	 ・ 山菜の収穫
	 塩漬け準備

■成果

従来、自家消費のみの山菜漬けで食塩を使っていたが ながさき天然塩を使った山菜漬けの味はとても美味しかったようです。また女性人の仲間づくりにも寄与

■課題 生産体制や保健所の許可を得るための加工所の整備。

■今後 安定した通年の取り組みとしたい。

## ② 山菜料理研修会

■ 開催日 平成28年10月23日




■ 会場 長崎多目的集会所

■ 参加者 講師：5名 関係者： 15名

■ 活動内容

山菜アドバイザーの谷口藤子講師を招いて住民に広く山菜についての興味を持ってもらうことと知識をえること。また身の周りにたくさんの山菜資源があり特産品になり得る山菜を見つけ出す。

### 開催記録

時間	内容	
9:30～ 講師と一緒に準備 長崎の秋の山菜 資源 12:00～ 13:30 試食、片付け	 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 山菜調理の準備</li></ul>	 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 講師から山菜名と料理の仕方を学び試食</li></ul> <p>山菜の中にはいつも住民が畑の草むしりをしている植物もあり、これ食べるんやーとビックリ、笑顔の絶えない日となりました。</p>
	 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 講師から長崎地区の秋の山菜を学ぶ</li></ul>	

■成果

住民の身の周りにはたくさんの山菜があることのおどろきとまた初めて活動に参加してくれた人もおり、活動の内容に少しずつ興味と認知が浸透しつつあることを実感できました。

■課題 保健所の許可を得るための加工所の整備。山菜資源量の少ない植物の安定供給、ビジネス化

■今後 今回の山菜研修会は高評でまたやってほしいとの声

### ③ 長崎地区の地域資源発掘と塩商品化に向けた取り組み（第1回目）

- 開催日 平成28年10月23日
- 会場 長崎多目的集会所
- 参加者 関係者： 5名 講師2名
- 活動内容

長崎地区の地域資源の発掘と塩商品化に向けた取り組みのため講師2名を招きヒアリングと現地視察を行なった。特に講師2名の方々の専門家や外部的視点からアドバイスを頂く。

#### 開催記録

時間	内容	
12:00～ 13:00 同時開催した山菜料理研修会での試食		
13:00～ 15:00 地域資源・塩商品化の打ち合わせ。	2講師と団体スタッフとの打ち合わせ  	塩づくり舟小屋、塩釜視察  
	塩の他社サンプル品を見本にパッケージラベルデザインと袋サイズなど打ち合わせ。	2箇所の展望台視察と今後の活用、景観も地域資源の大事な要素であることも講師から教えて頂く。

#### ■成果

今後の塩商品化に向けた第一歩が踏み出せた、特に講師のアドバイスを頂き、スタッフの本気、やる気になってきていることが伺える。

#### ■課題

住民の中には活動の方向性・関わり方・スピード・内容等に意識の隔たりがあり、今後、どう埋めていくかが課題。またフィールド整備に関わる整備費

■今後 よく眠っている地域資源と言われるが住民が気付いていない地域資源と教わる。

#### ④ 塩・味噌・その他物販品の試験販売

- 開催日 平成28年11月6日
- 会場 能登島コミュニティセンター
- 主催 能登島自然の里ながさき
- 参加者 小学生：2名 関係者：12名
- 活動内容

地産のながさき天然塩とながさき塩を使った味噌の試験販売を中心にその他物販品の販売を行なう。

#### 開催記録

時間	内容	
9:00～ 14:00 試験販売	 ・塩、味噌の試験販売	 ・店頭2名のスタッフ
	 ・裏方でその他物販品の調理	 ・少々行列気味

#### ■成果

塩100g入り100袋完売、味噌60パック販売、その他物販品を含め、イベント販売としては過去最高売上高を記録。

#### ■課題

イベント販売の成果はあったが今後、どのようにして特産品の販売方法を進めていくか検討していく。

#### ■今後

現在の任意団体を残し、特産品の販売を進めていくのには今後、新たな団体をつくり法人化していくことも検討。

## ⑤ 他方視察研修

- 開催日 平成28年12月3日
- 会場 七尾市—高岡市—氷見市—羽咋市
- 主催 能登島自然の里ながさき
- 参加者 幼児：1名 関係者：9名
- 活動内容

味噌加工2箇所（農業法人と味噌製造会社）道の駅・直売所など廻り、味噌技術の修得と特産品の視察研修を行い、今後の特産品づくりのヒントを得る。

### 開催記録

時間	内容	
8:30～ 15:30	 <p data-bbox="448 1099 619 1128">当日の参加者</p>  <p data-bbox="448 1480 895 1653">農業法人での視察、味噌のほか、米糎づくりから行なっていて今後、長崎地区でも可能で利益率も一段と向上する。</p>	 <p data-bbox="922 1099 1093 1128">直売所の視察</p>  <p data-bbox="922 1480 1374 1608">高岡市山元醸造での視察、大手での強み、良さ、ノウハウなど得るものが多くありました。</p>

### ■成果

視察研修で味噌製造過程での知識面、ノウハウの習得でたいへん得るものが多くあり、同時に長崎地区の塩を前面に出した味噌づくりは今後、長崎の独自性の味噌（特産品）と成り得ることに期待が持てる。

### ■課題

先進地を研修することでやはり製造過程における施設整備の充実を急ぎたいことと新たな試みを進めていくのにもまた新たな施設整備が必要となってくる。

### ■今後

とりあえず塩を突破口に特産品の商品化を目指し、その研究向上と施設整備を進める。

## ⑥ サギチョウチョウでの試み

- 開催日 平成29年1月15日
- 会場 長崎漁港と塩づくり舟小屋
- 参加者 幼児～小学生：10名 関係者：12名 大人：18名
- 活動内容

50年前行なわれていた長崎の子供達の伝統行事サギチョウチョウを復活して4年目、参加者は地元出身、遠方地から、隣接地で左義長を行っていない地域からの参加があり、特に子供達が年々楽しみにしてくれています。今回支援事業での新たな試みとして藻塩の塩づくりと塩・味噌の販売を試みました。

### 開催記録

時間	内容	
10:00～ 竹小屋づくり		
11:00～ 左義長（火入れ）		火入れ
11:30過ぎ 海水入雑煮、獅子鍋、焼き物	竹小屋作り	
12:30～ 片付け及び2次会		
	昨年の竹小屋にしめ飾りなど奉納	海水入雑煮を食す。
		
	参加の子供達	塩・味噌の販売

### ■成果

塩・味噌の販売は塩12袋味噌8パック（事前注文含）でしたが年々サギチョウチョウの認知度は広がりを見せています。

### ■課題 準備段階において意思の疎通が図られなかった点があり、次回の反省点





### ■今後 冬の当地でのイベントのひとつとして今後成長していきたい。

⑦ 地域資源の発掘、生態系サービスの勉強会と塩の商品化に向けた取り組み

- 開催日 平成29年1月21日
- 会場 長崎多目的集会所
- 参加者 関係者：13名 講師2名 能登島地域づくり協議会1名
- 活動内容

住民が思う長崎の地域資源についてのワークショップと講師から地域資源と生態系サービスや土壌などの勉強会、塩の商品化に向けた塩パッケージラベル・リーフレットデザインのサンプル品や長崎版の現段階のデザイン等を住民との意見を頂く。

開催記録

時間	内 容	
13:30～ 16:30 鏝講師の講義とワークショップ 黒川講師の塩の商品化にむけたラベル、チラシ等の提示と住民との意見聴衆	 <p>地域資源生態系サービス（鏝講師）</p>	 <p>ワークショップ男性グループ</p>
	 <p>住民が思う地域資源についてワークショップ女性グループ（男女2グループにわかれて行なう。</p>	 <p>黒川講師から ながさき天然塩のパッケージデザインの提示案</p>

■成果

住民が思う長崎地区の地域資源についてあまり皆で話し合ったことは無かったので今回はいろいろな意見が聞けて良かった。

■課題

あまり講義やワークショップなどは住民がこれまで体験したことが無かったので少し緊張気味でしたが次第に打ち解けて自分の意見を言うようになり、また今後、住民参加のまちづくりを進めていく上、話し合い・意思疎通・興味などをどのように把握し進行していくか綿密に取り組んでいくかが課題点でもあります。

■今後

今回も数名の初参加の顔ぶれがあり住民が思う課題について常に聞ける体制を構築していきたい。



## ⑧ 味噌仕込み、新たな試み

- 開催日 平成29年1月29日、30日
- 会場 寄り道パーキングながさき、その他
- 参加者 小学生： 2名 関係者： 11名
- 活動内容

今年の味噌仕込みは、ながさき天然塩100%を使つての味噌仕込みと他方視察研修で得たノウハウを新しい試みとして実行。

### 開催記録

時間	内容	
1月29日 8:30～ 15:00		
1月30日 16:30～ 18:00		
	味噌の仕込み中	煮大豆、ミンチは男性人
	中心メンバーの女性人	今年の味噌仕込みは3回に分けて仕込む。

### ■成果

他方視察研修で得たノウハウを今回実践、また100%ながさき天然塩を使った味噌仕込みができました。

- 課題 保健所の許可を得るための加工所の整備。
- 今後 今後の味噌仕込みは、地産大豆等の作付けをできるだけ地元で賄う。

## ⑨ 「寄り道パーキングながさき」の室内整備

- 開催日 平成29年1月10日～1月31日
- 会場 寄り道パーキングながさき
- 参加者 関係者：20名

■ 活動内容

寄り道パーキングながさき隣接の施設にて保健所の許可を得るため少しずつ完成を目指して進めており、今回、自然資料館、味噌加工所の室内整備を住民の手作りで行なう。

開催記録

時 間	内 容	
<p>H29年1月10日 ～1月31日の間の 各自空いた時間 (5名の延べ20人)</p>	 <p>寄り道パーキングながさき</p>	 <p>技術資格のある構成員が多い</p>
	 <p>増築部分の基礎の解体作業</p>	 <p>味噌加工所（壁・天井）</p>
	 <p>主な参加メンバー（写真他1名）</p>	 <p>自然資料館の天井とロフト部分は2部屋作る。</p>

■ 成果

保健所の許可を得るのに今回の支援事業で前進しました。また整備が進捗することでスタッフメンバーのやる気が増してきています。

■ 課題 一日でも早い施設整備、保健所の許可を得るための加工所の整備。

■ 今後 今年度は自然資料館での多目的な展示など企画

## ⑩ 記念パネルの作成

- 開催日 平成29年1月
- 会場 能登島長崎町
- 参加者 関係者：2人
- 活動内容 住民や長崎を訪れた人々の情報発信

### 開催記録

時間	内容
	 <p data-bbox="304 1290 1378 1375">彫刻家に依頼しての記念パネル能登島長崎の塩づくりを題材に はがき大（1号）のサイズ</p>

#### ■ 成果

記念パネル作成の狙いとして版画状態のものを少し加工を加えてデータとして保存、住民に印刷ハガキとして配布、年配者、健康が思わしくない方々も活動に参加でき、情報発信となる。元版は長崎を訪れてくれた人々の記念パネルとして活用。

#### ■ 課題

当初、版画家に依頼する予定だったがハガキに使用すると著作権（著作権）が発生することによって著作権無しの条件で彫刻家に依頼した、この事業でデータ化したハガキを住民へ配布するところまで行いたかったが時間的余裕ができなかった。

#### ■ 今後

今後、この記念パネルを長崎の景観、活動を幾つか作り、住民に配布して情報発信して頂くことと版画、写真等も商品としてビジネス化していく。

## 4. 事業の成果（総論）

停滞していた活動の参加メンバーに4人の新しい顔ぶれが参加してくれたことなど良い成果が得られた点、そして活動の認知度も内外的に支援事業前とはアップしてきていることが実感できました。また寄り道パーキングながさきの施設整備においても進捗状況が目に見える形となり、スタッフからは保健所の許可を得るのに後一息との声が聞かれるなどやる気の元となりました。今回の支援事業のテーマは塩で塩の商品化を突破口に次の商品化となる特産品の芽出しが住民の副収入、所得向上、生活の糧となることの機運が感じられてきています。

## 5. 課題

活動の取り組み方についてすべての住民が参加できるしくみ作りできていない点や活動に批判的な考えの住民も残念ながら現段階おり、行動を起こしてくれている人損得勘定で参加しない人（少数）また活動を応援したいが健康状態が思わしくない人、当初、批判的であったが評価してくれている人など住民一人一人の活動に対する考え方、関わり方に相違がありますが住民に強制せず、興味を引き出す取り組みや収入に繋がる活動を展開していく。

## 6. 終わりに

この支援事業の御陰で地域づくりやまちづくりなど住民の意識の向上が少しずつ成果として表れてきていることやスタッフのやる気が出てきていることが実感でき、今後の特産品づくりや住民の副収入に繋がる活動が過疎高齢化、少子化、集落機能低下など地域の課題に住民が一丸となっていく活動に盛り上がっていくきっかけとなっていくと思います。最後にこの支援事業に採択して頂いたことに感謝するとともに他地域のモデルとなるよう今後、精進していきたいと思います。